



雨ニモマケズ

10月26日

「コロナ感染」

校長 原 直樹

コロナへの対応の仕方、考え方について、ある意味慣れてきた昨今です。しかし今年になってからも、例えば法務省から「コロナ差別」「ワクチン差別」をなくす啓発がされています。それはすなわち、コロナ感染者や濃厚接触者への偏見差別、ワクチン接種をしない人への偏見や差別等が、未だに無くなり切っていない事実を物語っています。

福岡中学校でも、これまでに複数の生徒がコロナに感染しましたし、濃厚接触者にもなりました。感染が分かるたびに、生徒本人やご家族の協力で、発症数日前からの行動を取材させていただき、校内での濃厚接触者や自宅待機要請者を割り出し、対象の生徒や保護者さんに、行動制限などの協力をお願いするというような手段をとってきました。また、それら一連の対応については、その都度すべて教育委員会にも報告してきました。また夏休み前までは、感染者が出る度に、保護者あてに次のようなメールを流しました。「この度、本校の生徒に新型コロナウイルス感染症陽性者が確認されました。ただし、学校で感染防止対策を徹底していることから、校内に濃厚接触者やPCR検査が必要な生徒はいないことが確認されました。また、保健所、市教委等との協議の結果、学級閉鎖を行う必要がないことも確認されました・・・。」およそ、このような内容です。また、これらのメールの最後には必ず、「・・・これまで同様、人権に配慮した言動をよろしくお願いいたします。」という結びの一言を必ず付けていました。また、だれが感染したということについては、公表しないことは必須でした。もちろん、状況から、生徒間では互いに感染者が特定できたことは十分あったでしょう。

さて、この度、私自身が感染しました。最初は自身の体質でよくある軽いアレルギー反応同様、鼻水やのどのイガイガ程度の症状でした。体温は平熱でした。それでも違和感をもったのは、珍しく時々ズキーンと頭痛がしたことです。出勤を控え、かかりつけの病院に行きました。体温は平熱より1度ほど高くなっていました。病院の指示通り駐車場で問診を受け、駐車場の倉庫（車庫）でPCR検査を受け、また車に戻りました。5分もたたないうちにDrが車まで来てくださり「早く出ましたねえ。陽性です。」と告げられました。家族では、私と同じ職種の息子が、同時に体調に異変があり、受診と検査の結果やはり陽性でした。我が家の家族5人中、私と息子が陽性者となり、部屋に籠っての隔離生活が始まりました。トイレは2カ所あるので、1カ所を陽性者専用に使いました。食事は部屋のドア前まで持ってきてもらいました。洗面所と風呂場は、ラストに使い、妻が完全防備で消毒作業をしてくれました。幸い妻、娘、老齢の母には感染が広がらず、原家の今回のコロナ感染は治まりました。実は、我が家では、夏に娘が陽性となり、一度このような生活を経験していました。それにしても、感染者本人が身体的・精神的苦痛を味わうのはもちろんですが、家族全員の生活を乱す、このコロナというものにはつくづく参ります。

最初の話に戻りますが、コロナ感染という大変なトンネルをやっと潜り抜けて、日常に復帰した時に、差別まで味わうとは何たることか。私は、感染したことをむしろ隠すのではなく、皆が堂々と口にし、こんなことが辛かった、あんなことを家族で工夫したなどと経験談を語り合うぐらいにしたいと思います。その経験談は、コロナ感染時の対応として、次に感染した人にとっての強い味方となるはずなのですから。